

川づくり 清瀬の会

会誌 第21号 2013年9月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616

きよせの環境・川まつり

平成25年7月27日(土)



網で魚捕りをしたり
手作りのボートで遊んだり
柳瀬川で捕れた魚を見たり
いかだコンテストを楽しんだり

目 次

きよせの環境・川まつりを終えて	宮澤 とよ美……2
〃 (川遊び)	金内 彰 ……3
第25回身近な川の一斉調査	
新河岸川流域・全国一斉水質調査 (第1班)	木村 芳信 ……4
〃 (第2班)	金内 彰 ……4
〃 四中水質調査隊 (第3班)	望月 基子 ……5
〃 (第4班)	田島 通夫 ……7
「川の再生 柳瀬川現場交流会」柳瀬川源流を訪ねて に参加して	大谷 恒子 ……7
川とわたし	渋谷 けいし……9
武蔵水路を見学して	木村 芳信 ……10
くぬぎ山 (所沢市) 自然観察会に参加して	田中 くに子……11
三郷橋植栽地の草取りに参加して	宮原 りえ ……13
清瀬の水事情物語(2)	小西 一午 ……14
河川と自然シリーズ⑨ ミゾツバ、アキノウナギツカミ、ママコノシリヌグイ (タデ科)	大谷 恒子 ……15
川と温泉④ (丹波山温泉)	木村 芳信 ……16
多摩六都科学館夏休み行事ー武蔵野台地の営みー	宮澤 とよ美……17
第25回身近な川の一斉調査 (測定データ)	宮澤 とよ美……19
活動記録 (2013年4月～8月)	大谷 郁夫 ……20
事務局だより	大谷 郁夫 ……22
編集後記	金内 彰 ……23

きよせの環境・川まつりを終えて

宮澤 とよ美

近年の猛暑や偏った場所へのゲリラ豪雨、又竜巻など、季節的な自然現象ばかりとは思えない災害続きです。地球規模で気温が上がっているのは、利便性を追求した人間の生活が、確実に温暖化を進めて来たと言われます。以前から予想された異常な現象・災害などがこれから様々な形でエスカレートして来るのではという予感がいたします。

将来のために、あるいは次世代のために、地球温暖化を止めよう！という段階は超えてしまい、今を生きるすべての命を守るために、この環境を悪化させないように、環境保護の意識を高め、より温暖化を抑制する生活に切り替えなくてはと思います。

その手法として、市民皆で考え、有効な情報交換の場として環境フェアは開催されるのであり、目的の違う川まつりと同日同じ場所で行うことに、なんとなく違和感を覚えます。

昨年9月、川まつりに出ている団体代表に事務局から説明会が開かれ、「今年の開催方法は、8月の実行委員会で全員の賛成を受けて、すでに決定事項です。環境フェアの実行委員会が、川まつりの実行委員会でもあります。両方とも話し合いの上進行して行きますので、実行委員は各団体1人です。ですが川づくり・清瀬の会は、環境・川まつりどちらにも委員を出してください」とのこと、皆さんが諸手を挙げて賛成をされたと言うのであれば、環境フェアの実行委員の皆様はどちらも目的に沿うようしっかり頑張ってお下さることと理解を致しました。

その後、間もなく具体的なことは聞こえてこず、当会を中傷するような言葉が声高に入ってくるようになりました。やむなく12月の実行委員会に、定着した川まつりの資料を持ち、参加してみましたが、その場は、事務局からの説明と大違い、「川まつりには関係ありません」の声ばかり、川まつりは、川づくり・清瀬の会が責任を持って実行してほしいと言う雰囲気が出来上がっていて驚きました。いずれにしてもどちらをも一歩前進させなくてはなりません。

解散してしまった川まつり実行委員の皆様を早急に招集し、同時に事務局からは責任ある方が出席されるよう、田中さん・渋谷氏・宮澤とで事務局にお願いに行き、川まつりの進め方について2回にわたり話し合いを持ちました。実行委員を降りられたせせらぎ探検隊さんも、丁重にお願いすると快く賛同下さり、その後の集まりが第1回の分科会となりました。

当会はその場に手馴れた田島・金内両氏にも同席していただき、実行委員会への連絡係りに金内氏を推薦、以後は、順調に開催に向け動き出し、金内氏の的確な指揮の元、幹事始め会員皆様様の大きなご協力のお蔭様をもち、開催日は席をはずせないほどの盛況のうちに終わることが出来ました。

環境フェアの当会のテーマは、「stop! 温暖化」 緑や河川の持つヒートアイランド・

CO2 対策の有効性についてパネルを作り、川の生き物を介して来場者に訴えようと試みたのですが、可愛らしいお客様が多く、対応に手一杯で終わってしまいました。

今回の環境フェアは、何とか差し迫った共通のテーマを持ち、すべての学校にも参加要請をし、環境について情報の発信、考えることの出来る一日であって欲しいと心から願います。

きよせの環境・川まつり (川遊び)

金内 彰

第1回目の「きよせの環境・川まつり」が開催されました。晴れ無風のコンディションは「まつり」としては最高でしたが、当時の状況から熱中症が心配されました。

自分が担当した受付業務には、①魚捕獲体験、②ボート遊び、③いかだコンテストの「川遊び」3つの受付です。

今年度は、環境フェアと川まつりが合同となつての「きよせの環境・川まつり」第1回目の開催でした。宣伝も行き届き、市バスを使って西武線路南側の3小・6小・7小の生徒に参加を募ったりしたので、(昨年までと比較にならないような)大勢の子ども達の参加を予想しておりました。受付業務も大混雑を予想されたので、万全の体制で準備を整えておりました。しかし、当日は予想以上の参加者が殺到して、受付業務は大混乱をきたしました。受付担当者の冷静な対応と、東京清瀬ロータリー様の依頼による20人の精鋭、そして清瀬高校1年生15人の積極的なボランティアにより、さほどの問題もなくやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。

最終的に、魚捕獲体験：181名、ボート遊び：198名の子ども達が参加してくれたのは、喜ばしいことです。(昨年度はライフジャケットの数100名で打ち切り)。

過去最高の子ども達が参加してくれた「川遊び」は、不慮の事故が心配されましたがこちらも問題なく終了しました。

子ども達の歓声と観覧席におられた保護者の笑顔を見たときは感慨無量で、それまでの気苦労も吹き飛びました。

多くの方から「もっと川の中で遊びたかった」の意見が聞かれました。来年度に向けての重要な検討事項だと思います。

多少の問題がありましたが、「きよせの環境・川まつり」受付業務は、成功裡の



大盛況の「川づくり・清瀬の会」展示会場うちに終了しました。ひとえに皆様のご協力の賜物と心から感謝申し上げます。第2回目の「きよせの環境・川まつり」も盛会でありますよう、努力いたしましょう。

第 25 回身近な川の一斉調査 新河岸川流域・全国一斉水質調査

平成 25 年 6 月 2 日（日）9:00~12:00 天候 晴れ

（第 1 班）

木村 芳信

1 班は、清瀬橋より柳瀬川上流を担当しました。日向橋に集合し空堀川と合流するところまで水質検査をしました。日向橋より川の中を見るといろいろな不法投棄物が、多く目に入りました。ここでゴミを捨てる人は川とは思っていないのではないかと感じました。それほど川の中は汚かったです。こんな状況ですから水質検査結果はよくない。空堀川と合流する新柳瀬橋では、一目で水質が濁っているのがわかりました。落差工では、泡も少し見られました。空堀川のわずかな水量で柳瀬川の水は、約半分程水質が改善され流れるのがわかりました。泡の問題は所沢市側の下水道の完備が進まないで改善されない。（がんばってね）水量が多い時期では、汚れが目立たないが渇水期ではまだ汚れが目立ちます。



検査キットで水質を検査しデータを記入

夏の時期に愛犬ヨシちゃんを柳瀬川で水浴びさせるとほのかないやな匂いが付きます。（ヨシちゃんは、嬉しがるが、帰って洗うのが大変）水質を向上させるために、行政の皆様「川にごみを投げ入れない活動」を続けていただきたい。

（第 2 班）

金内 彰

第 2 班の担当は、前原橋・梅坂橋・柳瀬川合流点の 3 か所でした。調査に参加された方は、ベテランの菅原英郎・大島勉両氏、川づくり・清瀬の会幹事の丸山隆・金内彰の 4 人です。

調査内容は、①測定時刻、②天気、③気温・水温、④透視度、⑤川幅、⑥流れ巾、⑦水深、⑧流速、⑨水量、⑩パックテスト等である。3 か所の地点共雨不足のため、川に水がなく上記の調査内容のうちのいくつかは調査が出来なかった。



空堀川の調査模様

4 人の担当者の連携が素晴らしく、調査は順調に行われた。しかし川の調査というより、水たまりを調査した感じだった。調査した水は透視度も良く、パックテスト各種の結果も良かった。「水たまり」は湧水なので綺麗な水質であった。張り切って臨んだ 4 人の調査隊、簡単な作業に今一納得のいかない調査で終了しました。

(第3班) 四中水質調査隊

望月 基子

・計測地点 ①金山調節池 ②金山橋 ③清瀬橋

今年度の四中の生徒さんとの水質調査は、金山調節池からでした。調査の指導は、宮澤さんを中心に、生活クラブQネット3名の方にお手伝いしていただきました。調査隊は、四中の1年生7名の生徒さんと校長先生です。まず宮澤さんから、この調査の主旨と意義について説明があり、柳瀬川が以前よりきれいになってきたということ話を、生徒さん達はこの調査について理解が深められたと感じました。次に調査の方法を説明し、それぞれ行う調査の担当を決め、担当の調査項目について全員が責任をもって取り組みました。計測地点は湧水もあり、水質は良好でした。清瀬橋のところでは、川の中の石にヘビの死がいがかかっていた。とてもびっくりしました。あるカメラマンの人が、写真の邪魔になる子どもが川に入らないようにさせるために、わざとひっかけていたということがわかり、大人の身勝手な行動に憤りを感じました。暑い中、校長先生をはじめ生徒さんたちには最後まで真剣に調査に取り組んでいただき、心から感謝申し上げます。

この活動をきっかけに、自分たちが住む地域の自然環境について考えてくれるととても嬉しいです。調査終了後、皆さんに感想を書いて頂きましたのでご紹介したいと思います。

場所によって、川の流れの強さが違うことがわかった。楽しかった。

1 A 芳賀 竜希

調査のことがよくわかりました。最後の魚とりも楽しかったです。

1 B 樋口 恵美

川のいろいろなことがわかった。虫が川の中にいることがわかった。楽しかった。

1 C 小淵 裕也

川によって流れる速さや深さが違ってました。

1 C 青木 一真

川についていろいろなことが
分かって、よかったです。

1 A 小嶋 悠莉



調査のいろいろなことが分かり
ました。魚とりも楽しかったです。

1 C 矢野 あおい

場所によって水のきれいさ
がちがった。

1 C 星野 亮太

初めて参加しましたが、
たくさんの生物がいる川である
ことがわかりました。

川を守ることは、自然を守ることに
つながることにも気付きました。
清瀬の子ども達が、こんな身近に
豊かな川、自然がある幸せに
気付く目を育てていくことが大切だ
と思いました。

今日はありがとうございました。

渡部 孝司校長先生



パックテストの調査



流れ巾の調査

(第4班)

田島 通夫

第4班は、柳瀬川下流域を担当、城前橋から下流、水再生センターまでの5カ所で水質調査を実施した。先ず城前橋下を最初の調査箇所として9時に開始、例年の事ながら手順や記録に戸惑い、思い出しながらのスタートとなってしまった。

天候、水温・気温、流れ巾、川幅、流速、最深部・右岸・左岸3か所の水深、クリーンメジャーによる水の透視度そして試薬による水質調査に入る。検査は酸性度、亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素、CODのパックテストと電気伝導度の5項目で試薬を使う際は細心の注意と多少の経験が必要。お互いに注意し合いながら行った。

又環境観察もあり、土手の様子、植生、目視による魚影確認等調査項目は広い。

次に清柳橋近く、東川（所沢が源流）合流点上流。3か所目は東川合流点下流、以下水再生センター放流口、最後に放流口下流。

検査の結果、城前橋下と東川合流点上流は前年と比べて変化はほとんど見られず水質は良かった。特記すべきは、東川合流点下流においては所沢水再生センターからの放水がなくなり、かなり改善された。一方清瀬水再生センター放水口並びに放水口下流は昨年より悪化、匂いもかなり強く感じられた。水再生センターに対し説明を求めたが、この件に関して明確な回答は得られなかった。水再生センターの記録はCODは8とのこと、経過観察をして行きましょう。

環境的にはコンクリートや自然石をつめた蛇籠、鉄の矢板等で護岸が固められており、兩岸とも人の手に掛かり、自然の護岸はない。

魚の姿は目で追え、それを狙って釣り人も多く、調査に理解を示し協力してくれる人が多かったが、一方苦情や嫌味を言う輩もいた。

背の高い草の生い茂る土手やコンクリート護岸の昇り降り、足場の悪い岸边や川の中での作業は危険で余程の注意を要した。

※COD（科学的酸素要求量の略号で、水の有機物による汚染の程度を表す指標）
（数値が少ないほど、水質は良い。）

※巻末に「身近な川の一斉調査：測定データ」がございます。ご参照ください。

「川の再生 柳瀬川現場交流会」柳瀬川源流を訪ねるに参加して

大谷 恒子

6月13日（木）に、川の再生 柳瀬川現場交流会（主催：柳瀬川の上流をきれいにする会）に、川づくり・清瀬の会会員の鈴木洋子さん、会員外の鈴木きよ子さんの3人で参加しました。参加団体は①水フォーラム越谷、②砂川流域ネットワーク、③鴨川水辺サポーターの会、④笹目川の環境を守る会、⑤川越の魅力育てる会、⑥川爺、

⑦イオン狭山店、⑧川づくり・清瀬の会、⑨上新井の自然を愛する会、⑩戸田の川を考える会、⑪わくわく新河岸川みどりの会、⑫綾瀬川を愛する会、⑬柳瀬川の最上流をきれいにする会、⑭所沢市環境グリーン部環境対策課、⑮所沢市市民部山口まちづくりセンター、⑯上山口小学校、⑰西部環境管理事務所、⑱所沢市水環境課の会員、関係者等総勢 50 名近くの方々が参加されました。



上田埼玉県知事の挨拶

朝 10 時に西武球場前・駅前に集合し、簡単なコース・行程の説明を受け、出発しました。

まず最初は山口貯水池（狭山湖）に行き、東京都水道局の職員の方の水道水管理について、丁寧な説明を受けました。その後、狭山公園を通過して北野町の畑地、花畑などを楽しみながらウォーキング、途中、野外で昼食・休憩のあと、小手指古戦場跡、稲盛神社、トトロの森など所沢田園地帯を散策しながら、所沢市立上山口中学校の学校ファームを見学させていただきました。柳瀬川の清掃活動協力（以前に川のどこかの発表会の時に、映像で上山口中学生が毎月 1 回柳瀬川の清掃をしているのを見ました）と川浄化済みの木炭処理をしたファーム創設が縁で耕作指導中。その後、柳瀬川最上流の高橋広場（きれいにする会活動拠点の広場）で、同会の活動現場状況を視察、ご説明をいただきました。その後、堀口公民館において交流会が行われました。

参加各団体の各人の自己紹介と、各代表者が、会の活動状況の紹介をして『五感による河川環境指標～川の好感度～川の国埼玉』というクイズあるいはアンケート形式の問題に答えて、それをグラフに当てはめる興味深く面白い試みを経験させていただきました。その問題の項目は、①水の流れ、②水の澄み具合、③魚、④ゴミ、⑤景色、⑥住民の利用、⑦生き物、⑧植物、⑨川底、⑩自然の音、⑪川や周辺において、⑫魚貝・エビを食す、⑬植物を食す、⑭水に触って（入って）みたい、の 14 項目で、評価が 4 段階あって、自分が五感で感じた評価をします。清瀬の住民としては、ちょっと答えられない項目も一つ二つぐらいありましたが、とても面白い企画だと思いました。さすが、川の国埼玉だなあと感心しました。東京都と埼玉県の違いがあっても、活動方法やいろいろな試みがとても参考になり、勉強になって参加して良かったと思いました。とにかく、皆、川を愛する人たちばかりで楽しいし、充実感が味わえて帰路に着く時は、3 人そろって異口同音に「今日は参加して良かったね」の連発でした。

現地では、「柳瀬川の最上流をきれいにする会」の会長さんには、大変親切にしてください、特に、狭山湖では、周辺の素晴らしさをいろいろ教えて下さってありがとうございました。また、当日、都水道局の職員さんや、このイベント企画に携わった多くのボランティアの方々に感謝です。

川とわたし

渋谷 けいし

清瀬市内の河川は？と聞かれれば、本会会員の皆さんはもちろん、清瀬市に住む多くの方が「空堀川と柳瀬川」と答えると思います。色々な方とお話ししていると、西武池袋線以南にお住まいの方の中には柳瀬川はご存知でも「空堀川」をご存じない方が多いことに驚きを感じた覚えがあります。

さて、皆さんご存知のように、この両河川は共に荒川水系の一級河川であり、近年、急速に水質の改善が進みました。私は、幼少期、野塩の空堀川辺の家作に住んでおりました。昔から空堀川は、流量が少なかったので家のすぐ前のコンクリート護岸を下り、川辺で遊んでいた記憶があります。今思えばちょっと危険だったかな？なんて思いますが、良い思い出であります。その頃の空堀川は、恐らく水質が劣悪で幼心に水に入った後の自分の靴や足から強烈な悪臭がしたことを今でも覚えております。また、台風が来ると日頃、水量の少ない川が一変し、護岸上端まで水位が上がり、自宅の窓から濁流が流れるその光景を見ながら恐怖心に怯えていたことも思い出します。

私が小学校に上がる頃には、現在住んでいる中里の自宅に移り住むことになりました。今度は、比較的近くに柳瀬川が流れておりますので、小学校の頃はよく友人とアカバケ（所沢市）に遊びに行く道すがら柳瀬川で遊んでおりました。昭和 55 年前後の話ですので、当時はやはり柳瀬川も空堀川と同じ状況であり、川の中には洗剤の泡が渦巻いていたり、自転車捨ててあったり、それは子供の目から見ても酷い状況でした。学校や親からは、「川に入って遊ばないように」という御触れが出ていたと記憶しております。

あれから 30 年ほど経ちましたが、今や見違えるほど川がきれいになり、鯉をはじめ鮎が棲むことができる水質にまで改善しました。これは、清瀬市では他市に先駆けて下水道普及率がほぼ 100%となったことが大きい要因ですが、この他に本会会員の皆様をはじめ多くの方が川を愛する気持ちを育み、長年にわたり地道な活動をされてきた一つの結果であると思っております。一清瀬市民として改めてこれまでの多くの皆様の活動に感謝を申し上げます。

最近では、ゴールデンウィーク前後から晩秋の頃まで、柳瀬川の河川敷でバーベキューなどを楽しむ方の姿が多く見受けられるようになりました。これは、柳瀬川の水質が改善し、河川改修が完了した結果、柳瀬川に住む魚や植物などの生態系の様相が変わったことと合わせ、多くの方が憩い楽しむことのできる環境が整った証なのかもしれません。

私よりだいぶ先輩の方のお話をお聞きすると、その昔、柳瀬川で泳いだ話しや、清瀬橋から柳瀬川に飛び込んで遊んだ話し（それほど水深があった）、鰻を捕って食べたお話しなどを聞くことができます。半世紀ほど昔の話かもしれませんが、そういう昔の柳瀬川のお話を聞いていると、聞いている私まで楽しくなってきます。時間を戻すこと

はできませんが、柳瀬川をより良い環境にしていくことで、そのお話しの当時のような柳瀬川に近づけられれば良いなと思います。

今では毎年「川まつり」が開催され多くの子供たちで賑わっています。無論、今の子供たちは、かつて私達の年代が少年期に見てきた柳瀬川や空堀川の姿を知りません。もちろん今の柳瀬川の実態を知ることも大切ですが、これまで柳瀬川や空堀川の歩んできた道程を知ることで、そこから学ぶことも多いのではないかと思う今日この頃です。

今後も本会が清瀬の豊かな水辺環境の創造に大きな役割を果たすことを期待するとともに、微力ですが私も一会員として皆さんと一緒に活動していきたいと思っております。

武蔵水路を見学して

木村 芳信

皆さん武蔵水路って何だかわかりますか。私は見学するまで分かりませんでした。

(勉強不足を反省)武蔵水路は昭和 30 年代の東京の深刻な水不足を解消するために、利根川の水を東京で利用するために作られました。場所は埼玉県行田市～鴻巣市に有ります。約 14.5km の長さで、利根川と荒川を結んでいます。私たちが毎日利用している水は利根川の利根大堰から H25 年 9 月 6 日時点で 19.610 m³/s 取水しています。この水は荒川に流し秋ヶ瀬取水堰で取水され朝霞浄水場、東村山浄水場へ送水され私たちの元に届けられています。



改修工事が進む武蔵水路

清瀬市は東村山浄水場より送られてきています。見学に行った 7 月 9 日は暑い日です。新秋津から電車で揺られて吹上まで行きました。ここから水資源機構のマイクロバスで武蔵水路の改築工事現場にいき説明を受けました。このままでは、老朽化により安定した水の確保が難しいため耐震性、保守、景観、通行の安全等に配慮した水路に作り変えているとのことでした。痛ましい水の事故を防止するため容易に乗り越えられない配慮した柵を設置してありました。

水路内のいたるところにロープに張られた浮き輪がありました。何なのか聞いてみたら万一水路内に転落したら、流速が早く又つかむところもないためこれに捕まれば助かるとのことでした。主な工事は渇水期に行っているので完成まであと 3 年ほどかかるそうです。

この後利根川の中条堤(上流域は犠牲にして下流域を助ける)を見学しました。これは利根川に対して90度の角度で設置された堤防。中世のころより明治43年に廃止されるまで利根川治水の要であつた。(現代の人が考えればひどい堤防だが当時としては被害を最小限に抑える最善の施策であつた)



次は利根大堰を見学しました。

利根大堰 (手前が取水口)

全長700mの堰です。ここで利根

川より約2/3位用水を取り入れ武蔵水路・見沼代用水・埼玉用水路・葛西用水路への導水を通じて東京都・埼玉県への上水道と利根川中流部への灌漑、邑楽用水路を通じての群馬県邑楽地域への灌漑、隅田川の水質浄化用水である。ここで取水された水は東京都の上水道の40%、埼玉県の上水道の70%を供給している。私たちの水道水は、山に降った水がダムに蓄えられ、その水の一定量を利根川より得ている。水がなければ生活していけない。この水を大事に使うには、山の自然保護、河川を汚さない心構えが常日頃必要ではないか。水の大事さを再認識した一日でした。

くぬぎ山 (所沢市) 自然観察会に参加して

田中 くに子

7月13日(土) 新所沢駅前10時20分集合

西武の貸切バスにて、くぬぎ山に向かいました。清瀬からは、宮澤、木村、加瀬、大谷(恒)の各氏と私の5人が参加しました。

ここは2000年始め頃まで農家の経済林としての役割を終えた雑木林が、墓地や資材置場などになり、産業廃棄物焼却施設が林立、深刻な環境破壊、健康被害が起き、環境保護に立ち上がった方達がいるからと、宮澤さんにその現場に連れて行っていただいた場所でした。10何年前だったのでしょうか。

その後、環境団体に依って見事な雑木林に甦ったと聞き参加しました。

エコネットとみおか、SAVE・JAPANプロジェクト、埼玉NPOセンターの皆様
の素晴らしい環境づくりの中で、森さん、大場さんの出迎えを受けました。

林の中の空間は枯損木の椅子が置かれたステージで、大勢の方が出迎えてくれました。このステージはコンサート等も行われる場所の様です。

挨拶の後、4班に別れて観察会。手入れされた明るい林の中に入ると一番にササクサ(イネ科)と出会う。本当に笹の様な植物で、緑が彩やかで印象に残りました。

大変珍しいタシロラン(ラン科)葉緑素を持たない腐生植物を教えてくださいました。少し進んだ道路の左手は手入れされない茂った林があり、林縁にはニガキ(樹皮を駆除剤に使用)ヤマコウバシ、ゴンズイ、ヌルデ、フジキなどがあり細かい説明を聞きながら進む。

右手の林の縁にはミズヒキソウ、ホトトギスヒヨドリバナ、オニドコロなど植生豊かである。T字路に出ると瓦礫道、この辺りは昔、産廃を運んだ道路だったとか、林の一段低い所なども昔の面影があるとの説明がありました。

そこはちょうど所沢市、狭山市、川越市の境界線だそうです。道路脇にはオオブタクサが背丈近く伸びている。参加者が一本ずつ抜くだけでも減るのにと思いつつ歩く。

コナラが切られた株から若い枝が伸びていてこれは「土用芽」と言い俳句の季語だそうです。センブリ(珍しい)、ヤマハギ(キチョウの食草)、ヤマユリもちらほら咲いている。アカボシゴマダラチョウ、アカメガシワの蜜腺を教わる。

この林はオオタカの営巣もあるとのこと、環境も良くいかに林が深い分かる。幼木の植栽地の一角があり、バッコウヤナギ(もう冬芽あり)、ナガバノカワヤナギが自生している。

ネムの木はすでに花が終わっていた。栗の幼木には小さな可愛らしいイガがついていた。次の手入れされた林の道路脇にハエドクソウ、イチヤクソウ(群落)、オオバノトンボウソウ(群生)がおしげもなく見られる。

ヒメヤブラン=小さな紫の花が印象的、コオニユリもある。初めて見るオオムレイチョウタケ(白い大きなキノコ3本)がクヌギの根方にありました。

落ち葉の堆肥場もありましたが、一巡してみてもリーダーの方の造詣の深さと皆様の環境づくりの努力の結果素晴らし林に成長、植生の豊かさを堪能した一時でした。

最後にくぬぎ山コンサート会場に戻り各班1人ずつの感想を聞き、合同写真を撮り、係の方たちがその場で、釜で炊いたジャガイモと手作りのクッキーのお土産をいただき12時前に解散となりました。子ども達の参加も多く楽しい夏休みになったことでしょう。



くぬぎ山自然観察会参加者

土用芽や 狭山丘陵 境界線

三郷橋植栽地の草取りに参加して

宮原 りえ

「植栽地の維持管理作業」というちょっと難しいタイトルの集まりに参加したのは、「日頃なかなかお手伝いもできずにいるし、ちょうど日程が空いていたから」という思いからでした。自転車でたどり着いた時には、10人ほどの皆さんが、炎天下、思い思いの場所で草刈りを進めておられました。

休憩に入る時に、川まつりの話になり、宮澤さんが「もし溺れそうになったときに何とか助かる方法等体験します」と教えてくださいました。「足を下流に向け大の字になるよう水の上に浮き、まずは呼吸確保。岸边や浅瀬を捜します。そんな体験が、非常時に命を守るかもしれませんから…」目からウロコが落ちるような気持ちで聞きました。

「川とともに生きる」ということを、日々実践されている皆さんにとっては常識だったと思いますが、そんな簡単な、基本的なことを教えてもらったのは、お恥ずかしながら、40歳を過ぎて初めてのことでした。

その後、自分なりに調べてみましたが、「仰向けの姿勢は、“ラッコポーズ”とも呼ばれ、体力を消耗しないためにも重成功裡の要。流れる方向に足先を向け、周りを見る。背中に体重を預けるようにして、自分の足先が水面から見えるよう意識する。障害物は足で蹴って避ける。落差のある場所では“ダンゴ虫のポーズ”に素早く姿勢を変える……等々」。我が子も小学2年生。今後、子どもと一緒に泳ぎに行く機会も増えます。自分の身を守る方法を、子どもに分かりやすく伝えることが必要だと、改めて思いました。



草取りの様

植栽地で、日本古来の小さな蘭が自生しているのを見せて頂いたり、「草取りのお手伝い」のほんの2時間弱が、思いがけない学びの場となりました。

また、「“ダメなものはダメ”とちゃんとってくれる議員は大切にしないとけないと思っています。私たちにできることはやりますから。」という、身に余る言葉を頂きました。「放射能による汚染」を心配して動いていることを、見てくれている方々がいたことに、これまでの疲れが吹き飛ぶ思いでした。

私は今年から「多摩六都科学館」の組合議員として仕事をさせて頂いていますが、この夏の科学館主催事業「多摩北部広域子ども体験塾－武蔵台の営み－」（全6回）の講師の一人として、宮澤さんが「柳瀬川と清瀬水再生センター」を担当されたそうです。

多摩地区を代表する環境活動家の一人としての宮澤さんが清瀬にいて、その周りに意識の高い方々が集まって、地域の自然を守り、子どもたちを育てて下さっている。そのことに、心から感謝した夏でした。

清瀬の水事情物語 (2)

小西 一午

清瀬の水とのかかわりが後期旧石器時代の今から2万年ほど前からであるということ(前号で)述べてきたが、この2つの湧き水のほか中里を中心に多くの湧水がみられた。最近まであった部落西側の町田家一族の裏手の湧水池からの水で現在の「カタクリ自生地」の生命を全うしていたとされている。又、町村家一族の裏手にあった湧水は人々の飲料水のほか近くの水田に引かれていた。このほか数カ所の湧き水とともに柳瀬川流域の水田地帯を潤していたのである。野塩、中里、下宿の3地域の水田は、昭和30年以降、清瀬が東京のベッドタウン化して野塩、中里、台田(下宿)団地等の宅地化されるまで水田耕作が続けられていた。

さて清瀬の水田の歴史を振り返ってみよう。柳瀬川の水を近くにあった湧水等から利水して水田地帯を形成していたのは江戸時代以前からであったが、本格的に豊穰な水田地帯になっていくのは、家康が江戸に入府してからである。諸国から集る各藩の武士たちやそれをあてこんで蟬集する町人たちで世界一の大都市になった江戸の人々の食糧や飲料水の確保が命題となった幕府は、玉川上水等の開削とともに享保時代には殖産興業の一環として水田開発が行われ、それを指摘した江戸町奉行兼地方掛奉行だった大岡越前守忠相の配下だった岩手藤左衛門信猶(後の野塩の代官となる)らにより武蔵野新田が開拓されて清瀬の3地域にあった水田地帯も益々整備拡充され、そこで生産される米は柳瀬川、荒川(旧入間川)更には新河岸川の舟運を利用して幕府の米蔵浅草御蔵まで運ばれ、江戸市民の糊口をしのぐのに役立っていたほどである。一方で柳瀬川は天下の暴れ川として名を轟かせていた。大洪水で川が氾濫し、天明年間から文久年間の約100年あまりの間は、代官所による官営の水普請のほか下宿村民による村普請がしょっちゅう行われていた。暴れ川だった柳瀬川の寓話がひとつある。下宿と川をはさんで向い側の旧入間郡の城村をむすぶ城前橋がある。

現在は立派なコンクリート永久橋であるが、
当時は杉の丸太柱を打ちこれに桁板を4枚つなぎ合わせた簡単な人だけ通れる橋であり大洪水になってはすぐ流されて下流の村からの通報により、下宿の若い衆がそれを受けとってきて架け直していたという。その後両側に手摺りを付けた小車輛も通れる橋に架け変わり更に昭和

52年から現在の立派な橋に生まれ変わったのである。そして当時流されては拾って架け替えていた橋の部材は、使われるあてもないまゝに今も下宿の八幡神社の境内に保存されて残っている。



ミゾソバ、アキノウナギツカミ、ママコノシリヌグイ（タデ科）

大谷 恒子

ミゾソバ（溝蕎麦）

水辺や湿地に群生する。上部は直立し、高さ 30～100cm。

花期は夏～秋。

花はがくのみで、がくは 5 裂する。別名ウシノヒタイ。

北海道～九州、アジア北東部に分布。がくの先は紅色、葉に斑紋が入ることがある。

別名ウシノヒタイは葉の形をウシの額に見立てたことによる。イヌタデ属。清瀬では、金山調節池、空堀川・柳瀬川の水際。



アキノウナギツカミ（秋の鰻攫）



水辺や湿地に多い。茎には、下向きのとげがあり、ウナギでもつかめるということから名がついた。花期は夏～秋。北海道～九州、シベリア、中国に分布、イヌタデ属。花は枝先に数個ずつ付き、がくの先は紅色。葉は細長く、基部は矢じり形に張り出して茎を抱く。高さ 60～100 cm。清瀬では希少種です。

ママコノシリヌグイ（継子の尻拭）

道端や林縁などに生える。茎や葉に下向きのとげがあり、このとげで継子の尻を拭いていじめるというすごい名前。花期は春

～秋。日本全土、中国などに分布。イヌタデ属。

花は枝先に 10 数個付く。托葉鞘の上部は腎円形

で葉状。葉は三角形。高さ約 100 cm。茎のとげで、他の木などにつかまり上へ上へと伸びて行く。

中里 2 丁目 C 地区の林縁（柳瀬川通り沿い）に群生する。

花の色は紅（ピンク系）で可愛らしい。



川と温泉④（丹波山温泉）

木村 芳信

日本には、川の近くに温泉が数多くある。その中でも露天風呂（混浴）が好きで有る。今回は、多摩川上流にある身近な日帰り温泉で、入ると肌がつるつるになるのめこい湯です。1日十分楽しめます。

ここは、清瀬より距離で片道70km位になる山梨県の入り口です。ここに行くときは愛犬ヨシと一緒に、9時頃にでて奥多摩湖でヨシちゃんの散歩休憩を取ります。

ここまで来ると、車の台数も少なくなります。のんびりと奥多摩の景色を眺めて車を走らすとアツと言うまに、「のめこい湯」についてしまいます。泉質は単純硫黄温泉。ほのかに硫黄の臭いがするお湯で、神経痛



道の駅丹波山より“のめこい湯”を望む

（川向うの木々の間より見える）

や筋肉痛、冷え性や疲労回復にも効果があるそうです。

ここでの楽しみは、当然温泉（露天風呂）です。平日は、大体空いています。入ると肌がツルツル感じられます。温泉に入った気分を満喫させてくれ、温泉を十分に堪能した後は当然食事です。

私は有ればいつも手打ちそばです。その他に鹿肉カレー等の地のものがあります。

温泉が終わると、車の中で静かに留守番

していたヨシちゃん（愛犬）の出番です。夏は冷房付で1時間で約1リッター程消費します。ヨシちゃんの行先は当然川です。川岸で石を投げると川の中に入って拾ってきます。

（利口!）近くには、マスの釣り場もあります。（マス釣りと温泉のコースが一番ですが朝5時位には出ないと間に合わない）帰りは奥多摩湖畔で休憩をするのがいつものコースです。紅葉の季節は奥多摩周遊道路（1時間ほど遠くなるが）をドライブするのが最高です。

近くには、日帰りで自然を満喫出来る温泉が多数あります。思いついたら行ってみませんか。



和風の露天風呂とローマ風呂があります

（週替わりで男女入れ替え）

多摩六都科学館夏休み行事 一武蔵野台地の営み一

宮澤 とよ美

今年の耐え難いような猛暑の夏休み、多摩六都科学館は、武蔵野台地の豊かな自然を実感するために自然観察などのフィールドワークを企画。圏域に在住の小・中学生 50 名を募集。フィールドを八国山緑地、玉川上水と小平ふるさと村、東大田無演習林、柳瀬川と都清瀬水再生センター、釜の淵公園、南沢湧水と落合川の圏域 5 市 6 箇所を選定。

第 4 回目 8 月 19 日（月）が、清瀬市内柳瀬川と水再生センターの施設見学、続いて下宿ビオトープまでの行程です。参加者は小学校 1 年生から中学生まで、テーマの武蔵野台地を理解するには学年差が大きく、年齢にあった案内をするために田中さん、望月さんに助けをいただきました。柳瀬川の流れと、古多摩川が形成する清瀬の崖線や所沢の崖線を、坂の上り下り等から、台地と、川の流れる谷間を体感します。

集合場所は六都科学館駐車場、私たちも望月さんの車に乗せていただき、集合場所から参加者と共に 8 時 30 分バス 2 台に分乗して出発。今日のもう一つの学び、発見したことを未来につなごうと、希望する数名にカメラが渡され、撮った写真を使って映像制作を行い、〈ボクがつくる、わたしが残す！ 映像ドキュメント 一武蔵野台地の営み一〉として纏められ、その成果が 12 月に発表されると言う大変な企画です。

10 時所沢の崖線（アカバツケ）に到着。まずは科学館の皆さんがつくられた紙芝居から、関東山地を流れ下ってきた多摩川が青梅を扇頂とする扇状地を形成し、この扇状地が武蔵野台地の基盤であること、その上を関東ローム層が数メートルから十数メートルの厚みをもって堆積している様子を学びます。昭和 40 年代に崩れた崖線は、しっかりとコンクリートで覆われ、その下の地層は見るすべもなく、事前に斉藤隆雄先生にご無理をお願いして見つけてくださいましたカラー写真で子ども達には実感して頂きました。河川に親しむことの出来ない地域からの参加者も多いはず、早速左岸に渡る橋の上から柳瀬川を覗き、魚の姿を見つけます。左岸を金山緑地まで歩く間に、子ども達には馴染みのない落差工を通して川の上・下流を理解していただきます。



対岸からアカバツケを見る参加者

今日の暑さは格別、体力の消耗を考え緑地公園の木陰に手早く引率。一休みして金山調節池の見学です。調節池の役割は、洪水時一先ず水を蓄えて、堤防の決壊や、下流の街と人々の命を守る為の雨水貯留池であることを、越流堤などから学びます。又、湧水の豊かな水辺は、多くの緑や野鳥・昆虫などの命を育む重要な場です。

その様子を土手の上から眺めて、早々に緑地公園の木陰に戻ります。子ども達の水筒はすでに底をつき、主催者から支給されるお茶や氷が子ども達を元気付けます。



木陰でくつろぐ参加者の皆さん

この暑さの中木陰の水槽に、木村氏・加瀬さん・大谷さんが展示をして下さいました元気に泳ぐ柳瀬川の魚たち。大人も子どもも関心を持って見つめて下さいました。

お弁当の後、チョウトンボやギンヤンマ・コシアキトンボの観察をし、1時にバスで水再生センターに移動。鈴木課長補佐、松本係長はじめ、多くの職員さんに迎えられ、4階の会議室まで階段を上る。1階の階段数が家庭

の3倍程に相当。子ども達はめげずに上る、その気力に感心いたしました。

清瀬水再生センターの処理区域は、東村山市・東大和市・清瀬市・東久留米市・西東京市の大部分、武蔵野市・小金井市・小平市・武蔵村山市の一部で、計画処理面積は8,042ha。人口は約72万人で、現在1日の処理水は27万t。この地域は、雨水は川へ放流し、汚水は下水管を通して水再生センターに集めて処理する「分流式下水道」です。処理した後の水は塩素殺菌をして柳瀬川に放流し、その一部はセンター内の機械の洗浄・冷却、トイレ用水などに使用等、なかなか難しい説明をメモする子供の姿に又感心。処理以前の水、処理後のきれいになった水など見せて頂きながら、処理に欠かせない微生物(プランクトン)の説明も子ども達には興味のあるお話だったのでと思います。

たぶん処理場に離れて暮らす子ども達にとって、日常の生活の中では廃水処理施設と、処理システムは想像すら難しかったはず、おぼろげでも理解できたのではと思います。

今日の最後は下宿ビオトープ見学。何か楽しいことをと、池に沢山住み着くアメリカザリガニ捕りを予定しました。



施設見学の子ども達

子ども達は、ちゃんと履き替えの靴など持参。ひと時賑やかにはしゃぎ声のきかれる生き生きとしたビオトープに変わります。

4時、長かった1日が終了。お土産にヒメガマの穂を手にバスの中へ。綿密に計画を練られたスタッフの皆様、特にさりげなく子ども達に声をかけられ、気づきの助けをされる廣澤氏の細やかな配慮に学ばせて戴きました。

第25回 身近な川の一斉調査

平成25年6月2日(日)

河川名	測定地点番号		調査日			気温 (℃)	水温 (℃)	Ph	EC(μ/cm)	COD(D)(mgO/L)			NO ₂ -N (mgNO ₂ -N/L)	NH ₄ -N (mgNO ₂ -N/L)	透視度			川幅	流れ幅	中央水深	流速	水量	記事
	緯度	経度	調査場所	時刻	天候					1回目	2回目	3回目			最大値	最小値	平均値						
空堀川	35度46分33秒	139度30分6秒	前原橋	9:00	曇り	24	18.5	7.5	290	2	2	2	0.002	0.16	82	87	84.5	24	0	0	0	瀬切れ	
空堀川	35度46分45秒	139度30分23秒	梅坂橋親水階段	9:30	曇り	24	18	7	230	2	2	2	0.016	0.16	125	125	125.0	27.3	0	0	0	瀬切れ	
空堀川	35度46分55秒	139度30分27秒	三郷橋	11:30	曇り	23	21	9.5	240	6	6	6	0.005	0.16	70	70	70.0	24	3.6	0.18	流れなく不能	流速測れず	
柳瀬川	35度47分1秒	139度30分41秒	清瀬せせらぎ公園	11:00	曇り	21	17	7	155	0	0	0	0.005	0.1	130	130	130.0	3	1	0.1	0.4	地下水循環	
空堀川	35度47分6秒	139度30分43秒	柳瀬川合流点	9:45	曇り	26	16	6.5	210	0	0	0	0.006	0.1	91	94	93.0	50	5	0.15	0.4	ヒラ外ロムシ多	
柳瀬川	35度46分53秒	139度30分37秒	野塩団地歩道橋	9:00	曇り	21	20	7.5	280	2	2	2	0.002	0.2	65	67	66.0	19	10.9	0.18	1.5	ゴミ多	
柳瀬川	35度47分8秒	139度30分40秒	新柳瀬橋	10:36	曇り	20	18	6	280	2	2	2	0.005	0.2	75	80	80.0	20	0.3	0.3	0.5	鯉が多	
柳瀬川	35度47分20秒	139度31分21秒	金山調節池	9:51	曇り	20	17	6.5	104	0	0	0	0.001	0.2	130	130	130.0	-	-	0.5	-	湧水すくない	
柳瀬川	35度47分6秒	139度30分43秒	空堀川合流点(日向橋と清瀬橋の間)	10:36	曇り	21	19	7.5	270	2	2	2	0.002	0.2	65	65	65.0	17.5	8	0.55	流れなく不能	落差がなく湧水多	
柳瀬川	35度47分7秒	139度30分46秒	清瀬橋	10:41	曇り	22	19	7	158	2	2	2	0.005	0.2	70	70	70.0	45	11.3	0.18	5	オイカワ・カワセミ	
柳瀬川	35度47分19秒	139度31分23秒	金山橋下	1:12	曇り	22	19	7	156	2	2	2	0.005	0.2	74	76	75.0	36	0.25	0.25	1.42	ハーベキユウ多	
柳瀬川	35度47分50秒	139度31分55秒	城前橋	9:00	曇り	26	16	7	270	0	0	0	0.005	0.2	93	98	95.5	26	14.6	0.21	0.7	麗岸草本多	
柳瀬川	35度46分14秒	139度32分14秒	東川合流前	9:50	曇り	26	15	7	280	2	2	2	0.002	0.2	84	102	93.0	29	8.9	0.2	3.4	割ときれい	
柳瀬川	35度46分17秒	139度32分16秒	清柳橋(旧坂の下橋)	10:25	曇り	25	15.2	7	240	0	0	0	0.002	0.2	105	108	106.0	30	14.6	0.21	2.4	こもきれい	
柳瀬川	35度46分21秒	139度32分25秒	清瀬下水処理場(上)																			試薬なし	
柳瀬川	35度46分22秒	139度32分27秒	清瀬下水処理場(下)	11:14	曇り	25	16.5	7	350	8	8	8	0.02	0.5	117	121	119.0	60	22	0.21	6	大きなサイカチ	
柳瀬川	35度47分20秒	139度31分21秒	清瀬下水処理場放流口	10:52	曇り	24.5	19	7	380	8以上	8以上	8以上	0.002	0.4	105	107	106.0	60	60	-	-	-	臭い色あり

川づくり・清瀬の会、清瀬市四中、Qネット

2013年度 活動記録 (4月～8月)

- 4月3日(木) 第12回幹事会(総会の進め方、花見の会、20号会誌、今後予定ほか)
*宮澤ほか8名
(夕方) ■花見の会(下宿:幸楽) *参加21名
- 4月6日(土) カタクリまつり緑の基金募金活動参加当番(せせらぎ管理棟)
*宮澤、金内、大谷(恒)
- 4月8日(月) 渋谷市長との懇談会(新合流点等について) *宮澤、加瀬、木村
- 4月27日(土) 第15回川づくり・清瀬の会総会 *会員21名 中沢副市長ご臨席賜る
◇総会后、勉強会(下宿の歴史ほか:講師 坂間和英氏・斉藤隆雄氏)
- 5月9日(木) 第1回幹事会(会誌20号、河川年間計画、水質調査、市内一斉清掃)
*丸山幹事ほか10名
- 5月19日(日) 市民活動センター総会(活動センター) *宮澤、金内、加瀬、
- 5月23日(木) 会誌編集委員会(活動センター) *宮澤、丸山、木村、金内、田中、
加瀬、大谷(2)
- 5月26日(日) 【市内一斉清掃】(下宿)柳瀬川・杭のゴミ◇市役所(山下、村野)
*酒井、中西、船木、田島、加瀬、金内、戸塚、木村、松崎(丸松産
業)、小西美香、宮澤、大谷(2)、
- 5月30日(木) 会誌20号の印刷・発行 *加瀬、金内、田島、木村、宮澤、大谷(2)
◇水質調査リハーサル(調査要領等) *7名
- 6月2日(日) 【全国一斉水質調査】(清瀬四中) 渡部校長、 副校長、生徒7名
原(正)小西(美)、目黒(生活者Qネット)、藤岡、菅原、田島、
田中、松崎(丸松)、望月、加瀬、丸山、金内、木村、宮澤、戸塚、
大島、大谷(2)
- 6月6日(木) 第2回幹事会(空堀川清掃、植栽地の維持管理作業、川まつり他)
*金内幹事ほか6名
- 6月13日(木) 埼玉県・川の再生交流会(柳瀬川) *鈴木(洋)、鈴木(き)大谷(恒)
- 6月21日(金) 清瀬の環境・川まつり分科会(コミュニティプラザ) *金内
- 6月23日(日) 空堀川の清掃(梅坂橋・親水階段前) 畑山、木股、佐藤、酒井、大江、
関口、市川、戸塚、加瀬、宮澤、木村、大谷(2)
- 7月1日(月) 植栽地・維持管理作業(三郷橋横・三角地帯) *草刈作業
小西美香、宮原理恵、大江、加瀬、田中、宮澤、金内、木村、大谷(2)
- 7月4日(木) 第3回幹事会(武蔵水路、きよせの環境・川まつり、柳瀬川の清掃・魚
類調査併催、会誌第21号ほか) *宮澤ほか9名
- 7月9日(火) 利根川の武蔵水路・川の再生交流会(JR高崎線・吹上)

- *木村、大谷（恒）、宮澤
- 7月12日（金）「きよせの環境・川まつり」（会員宛文書）印刷・配布
*加瀬、金内、木村、大谷（2）
- 7月13日（土）希少生物観察会（狭山市・くぬぎ山：新所沢）*宮澤、加瀬、田中、木村、大谷（恒）
- 7月17日（水）川まつり・ボート製作（コミュニティープラザ）唐沢（せせらぎ）、
*金内、丸山、木村、大谷（2）、*黒田、山下、野島ほか2名（清瀬市役所）
- 7月21日（日）「全国一斉水質調査結果の検証及び総括」（新河岸川水系水環境連絡会）
*宮澤、大谷（恒）
- 7月25日（木）川まつり・筏製作（活動センター）*大竹、赤塚、金内、丸山、木村、加瀬、宮澤、田島、戸塚、大谷（2）
- 7月26日（金）川まつりの準備（台田運動広場）*加瀬、宮澤、丸山、木村、金内、田島、大谷（2）
- 7月27日（土）「きよせの環境・川まつり」*斉藤（実）、深沢（昌）、佐々木（敦）、原（正）、小西（美）、渋谷（信）、早川、藤岡、矢島、増田、大竹兄弟、赤塚、小西（一）、丸松産業（2）、望月、船木、戸塚、田島、田中、加瀬、大江、原（剛）、木村、金内、宮澤、丸山、大谷（2）、
- 7月30日（火）北々流域連絡会 宮澤
- 8月1日（木）第4回幹事会（川まつりの反省、会誌21号、柳瀬川の清掃ほか）
*宮澤ほか9名
- 8月8日（木）北々流連お成り橋ワンドの補修作業 宮澤
- 8月15日（木）関係者による幹事会（柳瀬川清掃・魚類調査の手順ほか）せせらぎ管理棟 *金内ほか5名
- 8月17日（土）清掃・魚類調査器具の準備等（活動センター） *木村ほか5名
- 8月18日（日）「柳瀬川清掃・魚類調査、魚とり」（台田運動公園）
*酒井広大、壮大、高橋伸治、山川敦史、福本光佑、以上、社協会：体験ボランティア、若松勇輔、佐藤善夫、村木コウヤ、大室季穂（3歳）：父兄同伴。酒井、松岡、菅原、戸塚、田島、加瀬、田中、望月、増田、木村、金内、丸山、宮澤、大谷（2）、
- 8月19日（月）多摩六都科学館・夏休み行事「武蔵野台地の営み」柳瀬川（松柳橋～金山調節池～水処理センター～ビオトープ）
[東久留米市、西東京市、清瀬市、東村山市、小平市の小学生]
*宮澤、加瀬、田中、望月、木村、大谷（恒）
- 8月26日（火）ふれあいまつり展示部会 木村・宮澤
- 8月28日（水）新河岸川流域川づくり連絡会 戸塚・大谷(恒)・加瀬・宮澤
- 8月29日（木）北々流域連絡会 空掘川見学 宮澤

◇◇ 事務局だより ◇◇

■「空堀川の清掃」

会主催の本年度・第1回目の清掃が6月23日（日）に空堀川で行われました。当日は、空堀川の梅坂橋・親水階段前に9時30分に集合し、参加者を上流（柳原橋上流域）及び下流（石田橋下流域）に分かれ、暑い中、ゴミ回収作業が行われました。河川の清掃も回を重ねるごとに、一般市民の参加も徐々に増えつつあり、主催者としてはうれしい限りですが、当会会員の参加者が少ないのが少々気になります。

なお、初参加は下記の方々で、常連の酒井氏、関口氏、市川氏（レンジャー2名）を含む総勢13名の参加を得ました。猛暑の中ご協力いただきありがとうございます。

□初参加：畑山氏（梅園3丁目）、木股氏（野塩1丁目）、佐藤氏（野塩3丁目）

■「柳瀬川の清掃、魚類調査・魚捕り」

本年度・第2回目の清掃が8月18日（日）に魚類調査と併せ柳瀬川で行われました。当日は、柳瀬川（台田運動公園前）の杭に引っかかっているゴミ回収を主体に下流域のゴミ回収を行いました。今回の清掃は、社会福祉協議会からの体験ボランティアとして下記5名の子ども達の参加を得ました。（体験ボランティアとして2回目の参加）また、今回は、毎年恒例の魚類調査（魚の寸法測定調査）及び魚捕りも併せて実施しました。猛暑の中、体験ボランティア・付添いの6名のほか、市報を見て参加の親子（3歳）、一般市民、会員など総勢23名の参加をいただきました。

◇体験ボランティア：清瀬市在住（敬称略）

○山川敦史（都立戸山高校1年生）、○酒井広大（清瀬第二中学校2年生）

○酒井壮大（清瀬第七小学校5年生）、○高橋伸治（清瀬第三中学校1年生）、

○福本光佑（清瀬第十小学校5年生）、○若松勇輔（中里）

*酒井広大君は（2回目の参加）

●魚類調査結果（水温23度）

アユ 19cm～12cm。ギンブナ 7cm。オイカワ 16cm～8cm。その他モッコ、ウグイ、ヌマチチブ、ヨシノボリ、どじょう等 初めてシジミを確認
行事終了後、体験ボランティアの子供たちを囲み、じゃが芋などを食し、懇談した。
猛暑の中、ご参加いただきありがとうございます。



魚類調査・魚捕りの参加者

■「新会員紹介」

吉田則子（野塩3丁目在住） どうぞよろしくお願ひ致します。

■行事予定のお知らせ

☆「三郷橋・植栽地の草刈作業」

○実施日時 10月13日(日) 9:00～11:00【雨天中止】

○集合場所 三郷橋・植栽地。

○持ち物 帽子、古靴、飲料水、軍手。

※草刈り用のカマは当会で準備します。

※駐車スペースがございませんのでご了承ください。

※終了後、いも煮会を行いますので、お椀をご持参ください。

☆「空堀川の清掃作業」

○実施日時 10月27日(日) 9:30～11:00【雨天中止】

○集合場所 梅坂橋・親水階段前。

○持ち物 帽子、長靴(古靴)、飲料水、軍手。

※清掃用具等は当会で準備します。

※駐車スペースがございませんのでご了承ください。

※10月15日の清瀬市報に掲載します。

○お問い合わせ先 事務局(大谷) ☎ 495-9052

会長(宮澤) ☎ 491-3616

👉 編集後記 👈

会誌21号には、柳瀬川現場交流会、武蔵水路・くぬぎ山自然観察会、武蔵野台地の営み等の体験・見学会の報告を多く掲載いたしました。また、6月2日に実施いたしました「新河岸川流域・全国一斉水質調査」に参加くださいました清瀬第四中学校の生徒と学校関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。7月27日(土)に開催されました「きよせの環境・川まつり」で、川づくり・清瀬の会のブースにたくさんの皆様にお越しいただきました。当日は、矢島氏・増田氏の投網と大竹兄弟・赤塚君(当会の大事な会員:高校1年生)に早朝より魚捕獲していただきました。多くの魚たちの展示に子ども達も大喜びでした。ボランティアいただきました皆様お疲れ様でした。次号(22号)は年始号です。皆様の投稿をお願いいたします。



早朝、高校生が捕まえた
モクズガニ

川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方

〒204-0004 東京都清瀬市野塩 1-156-5 401

電話(042)495-9052

Eメール irotani@live.jp

ホームページ <http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>